

## にしあわ学舎

### 事業のポイント

■ にしあわ学舎は平成27年3月、三好市井川町(三好市役所 井川支所)に設置。県西部2市2町(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)を対象に地域を支える人材の育成や課題解決等の事業を行う。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

##### ● 魅力的なまちあるき体験開発

三好市井川町周辺において昨年度より取り組んでいる本活動では、今年度、都市デザイン研究室(本学理工学部社会基盤デザインコース)の学生2名を中心としたフィールドワークを複数回実施し、地元のボランティア団体「辻の浜を守る会」による清掃活動への参与観察や、同地域にて古民家リノベーションに取り組んでいる地域外出身者へのヒアリングを行なった。そうした地域資源の把握プロセスを経て、年度内の活動テーマを「既存の観光者向けまちあるきマップのり・デザイン」に設定し、独自のマップ作成に取り組んでいる。



### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫(人と地域共創センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

#### ● 三好市における認知症施策向上に関する協同連携事業

本事業は、三好市の地域包括支援センターと協働し、厚労省が推進する認知症施策の一環として、各自治体で養成されている認知症サポーターに対し、ステップアップ講座を実施するものである。認知症高齢者ができるだけ住み慣れた地域で生活し続けられるよう、地域で主体的に認知症を手助けできる人を増やすことを目的としている。

事業の取り組みとしては、年度当初より、三好市地域包括支援センターの主催するオレンジカフェ・オレンジ相談会等に参加し、同市の高齢者施策や高齢者の実情について理解を深めた。その後、9月にサポーター養成講座、10月にステップアップ講座を実施し、後者では講座のコーディネート及び講師を務めた。認知症サポーターを対象とした、ステップアップ講座を県内で実施している自治体は、現時点では限られており、同市では本年度が初めての試みとなった。



## 上勝学舎

### 事業のポイント

■ 四国で最も人口の少ない町上勝町において、持続可能な地域づくりのため徳島大学と上勝町との包括協定に基づき展開する事業。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

徳島県上勝町はおばあちゃんの葉っぱビジネスで有名な「いりどり農業」や、循環型地域づくりの先進事例でもある「ゼロ・ウェイスト政策」など、地域活性化の好事例として取り上げられることも多い地域である。しかしながら、少子高齢化に伴う人口減少は進んでおり、地域の担い手不足は大きな課題である。このような状況下において、地域の活力となる若手人材の確保や育成を主目的とし、徳島大学と徳島県上勝町との包括協定に基づいた徳島大学上勝学舎事業を実施している。

#### 2. 事業の取組状況

今年度は、ゼロ・ウェイスト活動やいりどり山構想などの上勝町におけるSDG s 達成に向けた取り組みを地域資源として、大学生を中心とした若者に対して上勝町のような地域での暮らしに興味関心を高めることができる教育プログラムの開発を行った。

##### (1) ライフデザインワークショップの開発

近年若者を中心に、地方志向の高まりが報告されている。またICT 技術の進展等により、時や場所を選ばず仕事ができる環境も整備され、若者定着を狙う地域においては好機と捉えることができる。しかしながら、特に都市部で生まれ育った若者にとっては、興味関心はあっても具体的な地域での暮らしのイメージがなく、地域での自身の将来設計を行うことは困難である。そこで、上勝町のライフスタイルと都市部でのライフスタイルを現地において比較しながら、参加者のライフデザインを設計する教育プログラムの開発を行った。今年度は授業科目「ライフデザイン」と連携し、2022年11月12、13日にモデルプログラムを実施、用いるワークショップやツールの開発を行った。参加者は自身の人生において大切にしたい価値観を知るワークショップや、実際に上勝町で暮らす移住者や子育て世代へのインタビューを実施することで上勝町での暮らしのイメージを掴み、その魅力と課題について学んだ。

### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫(人と地域共創センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp



地域で暮らす若者世代へのインタビューの様子

自身の価値観を知るワークショップの様子

##### (2) ゲームフィクションを活用した地域学習ワークショップの開発

上勝町は既に年間多くの若者や学生を受け入れているが、視察や単なるフィールドワークではどうしても学生も受け身となり上勝町の取り組みについて学ぶだけに留まり、次のアクションに繋げることが難しい。そこで本事業では、SDG s をテーマに、ゲーム感覚で遊びながら地域の課題解決アイデアを生み出すカードゲームを用いて、学生が主体的に地域の魅力や課題を発見することができるモデルプログラムを実施した。今年度は授業科目「実践・地域創生学」と連携し、学生たちは2022年12月2日～4日に上勝町を訪れ、ゼロ・ウェイストセンターやいりどり農家等フィールドワークを実施した。最終的に本プログラムを通じて自身が学んだ上勝町独自の地域資源や地域課題を抽出し、オリジナルカードの試作品を作成し、学生が今後自分ごととして取り組みたい課題解決アイデアの発表を行った。



ゲーム教材を使用したワークショップ いりどり農家研修の様子

#### 3. 事業実施による成果と今後の課題

以上のように、今年度は若者が上勝町に興味を持つ入り口となる2つの教育プログラムの開発を行った。今後も継続して今年度開発した教育プログラムを実施し、プログラムの改善を行っていく。また、今回のプログラムを通じて生まれた学生のアイデアを活かしたプロジェクトの組成を行い、具体的な課題解決に向けたアクションに繋がる取組を進める。

## 徳島大学・美波町地域づくりセンター

## 事業のポイント

■ 人口減少、津波防災などの課題を抱える美波町において、大学、地域行政、住民との連携を推進し、美波町における地域づくりをすすめることで、大学における地域貢献拠点としてのモデル発信を目指す。

## 事業の概要

## 1. 事業の目的

当センターは、2013年7月に、徳島大学と美波町との「持続可能なまちづくり」をテーマとした連携協定の活動拠点として、美波町役場由岐支所3階（2021年11月1日より美波町由岐生活支援ハウスに移転）に開設した。徳島大学と美波町が連携し、知的・人的資源の活用と交流を図り、相互に協力して地域の発展と人材の育成に寄与する。

## 2. 事業の取組状況

## ① 研究員が駐在し研究活動の実施

当センター事務室に研究員が駐在し、美波町由岐湾内地区における事前復興まちづくり活動の参与型分析を行っている。令和4年度は、第3回世界防災フォーラム2023等で発表を行い、日本災害復興学論文集等に論文投稿した。

## ② 持続可能なまちづくりに関するシンポジウムの開催

持続可能なまちづくりの啓発や交流を兼ねたミニシンポジウムを開催している。令和3年度は、「令和3年度徳島大学地域交流シンポジウム」（2月23日）、「令和4年度第5回在住外国人を対象とする防災ワークショップin美波」（3月19日）を主催した。

## ③ 『美波共創塾』の運営

令和元年度より、美波町と徳島大学が協働で、「美波町の将来像を実現するために、多様な主体と新しい価値を「共」に「創」り上げていくオープンな場」として、『美波共創塾』の運営を行っている。令和4年度は、(1) 地域自治を担うリーダー育成において、地域住民を対象に『美波共創塾』の新規募集を行い、22名の塾生と地域づくり勉強会・情報共有会または塾生の現場視察・交流会を計8回開催した。また、塾生が4つの活動グループ『地域資源を活かした新たな土産物開発』『高齢者の生活支援』『ふるさと教育+モノづくり』『未利用の資源を活用した特産品の開発』に分かれて、年間通じてグループ毎の実践も行い、年度末に活動成果報告チラシを作成、町内に全戸配布した。(2) 地域住民と協働する職員育成において、『美波共創塾通信』(No.8~11)を発行した。(3) 地域の宝である次世代育成において、日和佐小学校5年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した年間カリキュラムを作成、計18時間、延べ468名に授業を行った。また、由岐小学校全校生徒を対象に、計17時間、延べ297名に授業を行った。(4) 町外の交流・関係人口の創出において、令

## 事業代表者・連絡先

山中 英生 (人と地域共創センター・副センター長)  
〒779-2103 徳島県海部郡美波町西の地字大谷48-1  
(美波町由岐生活支援ハウス)  
tel / fax: 0884-70-1274  
e-mail: tokushima-minami@tokushima-u.ac.jp

和2年度に作成した『由岐湾内地区防災ツーリズムMAP』を活用して視察研修の受入を行った。

## ④ 美波町の自主防災活動の支援

美波町自主防災会連合会および由岐湾内3地区自主防災会連合会の事務局支援を行っている。令和4年度は、前者については、美波町避難所開設・運営訓練（11月20日）等の支援を行った。また長年にわたる活動が国から評価され、令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。後者については、避難まつり2022in西の地（4月9日）、夏休み西の地防災子ども教室（8月5日）、西の地防災きずな会防災サタ（12月24日）、由岐湾内地区後期高齢世帯の個別避難計画の作成・訓練等の支援を行った。

## ⑤ 美波町地域づくりの支援

令和2年度に発足した美波町由岐湾内地区の任意団体「美波のSORA」に参画し、後期高齢世帯の生活安心調査、生活支援サービスの実施、SORAのつどいの開催、SORAカフェ・SORAキッズデイの開催、ふるさと教育、令和4年度徳島県新規採用職員「地域交流体験研修」の受入等を行った。

## ⑥ 徳島県南の防災まちづくりの支援

牟岐町自主防災会連絡会防災研修や令和4年度牟岐町避難所開設・運営訓練（12月11日）、牟岐町災害ケースマネジメント手引書作成等の支援を行った。また、海陽町立穴喰小学校5年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した年間カリキュラムを作成、計18時間、延べ234名に授業を行った。

## ⑦ その他（講師、委員等）

徳島県内外での防災まちづくりに関する講演会等の講師を計44回務め、また徳島県復興指針推進委員会はじめ委員会に計8回出席した。



## 神山学舎

## 事業のポイント

■ 神山学舎は平成27年5月、神山町(神山パレー・サテライトオフィス・コンプレックス)に設置。若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。

## 事業の概要

## 1. 事業の目的

令和4年度は令和3年度に続き神山学舎事業として、成層圏に酵母菌を打ち上げ、さらに変性させたビール酵母を用いて「25241M」をKAMIYAMA BEER PROJECTより醸造販売しさらに、徳島県工業技術センターにて香気成分分析によって成層圏での微生物DNA性質変性の効果を確認した。また水質浄化池をまちへひらくプロジェクトを実施し、地域の課題について考える場となった。

## 2. 事業の取組状況

● 成層圏ビール「25241M」の継続生産と科学的調査  
徳島大学神山学舎では成層圏を活用した特徴的な地域商品の開発・地域ブランドの向上を目的とし、地域由来の素材の打ち上げ実験を行っている。令和2年には成層圏での紫外線等のストレスが酵母菌を変性させるという実証実験のもとでビールの試験生産を行い、味覚および香気成分に変化があったことを認めている。令和3年度はそれらの成果をベースに再度成層圏に酵母菌を打ち上げ、商品開発を行い社会実装にまで結びつけ、さらに令和4年度は継続的な打ち上げと生産、および性質変性の可否を科学的に明らかとした。地上でお留守番をしていたお留守番ビール酵母と、成層圏で暴露した成層圏ビール酵母を用いて最もシンプルな形で香気成分比較のために試験醸造をしたところ、



本年も発売：開発された成層圏ビール「25241M」

主観評価においても明らかな香気成分の違いが認められた。そこで徳島工業技術センターにて液体クロマトグラフによって分析を行い酢酸エチルと酢酸イソアミルの値に変化が見られた。つまりは成層圏において酵母菌が何らかの大きな変性が起こり機能変化が起こったことが予想できる。一般的にDNA改変は280nmの紫外線領域に曝露され

## 事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (人と地域共創センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

ることで成し遂げられる。成層圏への90分程度の曝露によって、こうした機能変性が起きることが間接的に証明できた。微生物の地域特性やプロバイオティクスの価値に注目が集まる中で、アストロバイオロジーと組み合わせ「飲む学術成果」として地域の特産物をデザインした本年度は科学的に性質変性が証明された。

## ● 水質浄化池をまちへひらくプロジェクト

神山町の町営住宅「大埜地の集合住宅」（2022年度グッドデザイン賞受賞）に設けられた水質浄化池を介して、かつて暮らしの根幹にあった鮎喰川に再び人びとの意識が向くことをめざした活動である。神山つなぐ公社と、本学の環境衛生工学研究室、都市デザイン研究室が協力し、月例の除草活動、環境調査、風景体験手法の開発に取り組んでいる。

本年度10月1日にタウンミーティング「水辺でまったりポスターセッション in 神山町 大埜地の集合住宅」（水質浄化池から、川と暮らしのつながりを考える #2）を開催した。現場開催としたことにより、ピクニックのような雰囲気なか、これまでの調査・研究経過についての熱心なやりとりが屋外で交わされた。来場者を対象とした風景体験「池ぶか」も併せて実施し、ポスターセッションの内容を来場者自身が五感を通して体感することができるイベントとなった。なお、神山つなぐ公社・高田友美氏による本年度タウンミーティングの詳細なレポートは、下記ウェブサイトにて閲覧可能である。

<https://akuigawa.com/letter/1842>



## 那賀町地域再生塾

### 事業のポイント

■ 那賀町で活動している「地域再生塾」に更に学習の機会を提供し、より効果的な市民活動となり積極的な展開を促すほか、那賀町と連携した地域活性化に取り組む。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

那賀町の地域再生塾は、町おこし団体「那賀人-Nacord-」との協働を通じて、那賀町における地域再生人材育成と地域の活性化を図ることをめざしている。

#### 2. 事業の取組状況

##### ● 廃校活用プロジェクト

上那賀地区に位置し、2016年に廃校となった旧桜谷小学校の校舎を活かし、高齢化の進む周辺地域の活性化を図るものである。

現30代・40代子育て世代が子どものころに流行した遊びであり、現代にも一部に強い人気がある「ミニ四駆」を一緒に、親子が連れ立って遊びに来られる場づくりをねらい、ミニ四駆サーキット製作に取り組んだ。学生らによるプロジェクトチームを設け、那賀町らしいサーキットづくりのアイディエーション、シミュレーションソフトを用いた製作案の検討を経て、旧校舎の教室1部屋分のサーキットを完成させた。同サーキットは、本年度12月の上那賀地区産業文化祭にあわせて公開された。



### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (人と地域共創センター・センター長)

〒771-5406 徳島県那賀郡那賀町延野字王子原31-1

tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880

e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

本年度でサーキットの製作は完了したが、この場所を介した町内外の交流が盛んに行われるよう、活用についても地元関係者らと検討を進めていく。

##### ● ポータブルサウナ活用可能性探求

持ち運びが可能なテントサウナを用いて、奥まった地理的条件や豊かな自然の中で過ごす体験プログラムづくりに取り組んでいる。今年度は、阿南市の「カモ谷製作舎」協力による、テントサウナ×自家焙煎コーヒーで「ととのう」プログラムや、圓明山萬福寺にて、テントサウナ×和尚による指導つきの坐禅を組み合わせた「お寺でサウナ」を実験的に開催



##### ● 自転車を用いた観光的魅力の再発見

昨年より始動した本テーマについては、本年度、試行対象をタンデム（二人乗り）自転車に限定して周遊体験を企画した。上述の「廃校活用プロジェクト」と組み合わせての実施となった。「新四国八十八ヶ所水崎(みさき)廻り」を周遊するコースを、学部1年生ら（本学講義科目「実践・地域創生学」履修生）と町民らに試乗いただいた。

タンデム自転車に初めてふれる試乗者がほとんどであったが、2人で息を合わせての走行は両者の親交を深めることができることや、後方乗車者は景色を楽しみながら走行できることから好評であった。



##### ● 空き家改修ワークショップ

町民の多世代交流を賦活する“みんなの居場所”として昨年度開設された旧家屋「おんどりほ一む」について、本学のサテライト拠点としての活用性を高めることもねらいとして、本年度より当該施設のリノベーションをワークショップ形式で進めていくこととなった。本学社会基盤デザインコースの建築学生が木造家屋に実際に手を加えることを通じて、建築物の構造への理解を深めるとともに、当該施設が卒業後も那賀町とのつながりを保つ契機となることを企図している。

キックオフとなる今年度は、全国床張り協会徳島支部協力のもと、8畳和室の畳をはずし、町産の杉材で床板を張るワークショップを実施した。また後日、柿渋塗料で表面を塗装し、仕上げとした。



## 地域連携・課題解決の取組

### 事業のポイント

■ 地域連携による課題解決、価値創造、地域再生人材育成、実践モデル教育・研究、拠点形成、地域活性化イノベーション・プラットフォームの構築のための実践的な取組を行う。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的

地域活性化を目的としたイノベーション・プラットフォーム「フューチャーセンターA.BA」を拠点とした地域の課題解決や価値創造のための実践的な取組等を実践している。

#### 2. 事業の取組状況

##### ● サイクルツーリズム講座

全国でサイクリングを楽しむ観光サイクルツーリズムが勢いづく中で、サイクリングを活用した地域活性化等に関心を持つ市民と協働して、徳島ならではのサイクルツーリズムのモデル、組織、人材づくりを目指す徳島大学サイクルツーリズム講座を、6月・9月・3月で全3回開講。



##### ● Tokudai Hospital Art Labo

昨年度の「ひびきあうハート」プロジェクトの最終章として、アーティスト西村公一氏に來徳いただき、学生や地域の人々に技術指導していただきながら、フューチャーセンターA.BAに渦潮をモチーフとした壁画を制作した。またCSRプログラムとして参加したBNPパリバ・グループの社員と共に徳島赤十字病院を訪問し、病院長と事務長にその後の作品の評判についてインタビューを行った。2020年度から取り組んでいる美波病院のホスピタルアートについては、階段に地域のモチーフであるウミガメとイセエビを制作した。11月には徳島県立障がい者芸術・文化活動支援センターにて、福祉施設職員を中心とするワークショップ「マスキングテープでクリスマス」を開催し、施設で活用しやすい制作方法を伝え、障がい者交流プラザのギャラリーにクリスマス装飾を制作した。作品は1月初旬まで展示した後、壁面に使用したマスキングテープすべ

### 事業代表者・連絡先

田中 俊夫 (人と地域共創センター・センター長)  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1  
tel: 088-656-7651 fax: 088-656-9880  
e-mail: cr-office@tokushima-u.ac.jp

てを再利用した作品にリメイクし、同プラザの廊下の壁面に新たな装飾を施した。



「マスキングテープでクリスマス」徳島県立障がい者交流プラザ・プラザギャラリー

##### ● 徳島ロボットプログラミングクラブ

(開催日) オンラインロボットコース：夏季 8/6, 8/7, 8/21, 8/28, 冬季 12/24, 12/25, 1/8, 1/22

ロボットやプログラムの製作を通して、メカトロニクス・ICT技術の興味・関心を深め、未来を担う人材育成を目的とし、地域の小学3年生～6年生を対象に、大学生のTAとともにロボット教室を計8回開催した。今年度の夏季はオンラインのみであったが、冬季はハイブリッドで実施し、受講生同士の交流も深められた。



##### ● にし阿波の魅力発見！オデオン座国際プロジェクト

2019年から題材としているつるぎ町の実話「十六地蔵物語（1944年に大阪から疎開し、居留する真光寺の火災により終戦前に亡くなった16人の日本と台湾や朝鮮にルーツを持つ子供たちの話）」を朗読劇として美馬市脇町劇場オデオン座にて2022年12月11日に上演した。動画に編集した本作品をより多くの人に知ってもらうように努力

を続け、今後もし阿波地域の人々と連携して、「多文化共生のまちづくり」を考え実践していきたい。

朗読劇十六地蔵物語2022：https://youtube/Y8LLsknQ1Jk



##### ● 気球、GIS、AIを活用した地域BIGデータ収集とモデル化

本事業では、音を出さないという特性を有する係留気球により災害情報を上空から取得する「災害対応情報支援システム」の実現を目指すものである。具体的には被災した地域のサイレントタイムでの運用を想定し、音声・AI・GISとの連携により取得した動画・音声データから要救助者の位置座標をいち早く特定するシステムを構築する。今年度は、アドホックマイクロフォンアレーを用いて複数地点で収録された音声・音量の差分から到達距離を算定する方法を実装するために、音声の収集可能範囲を確定させる実験を進めた。現在のところ、高度100mにおいて、半径700mの範囲で、音声の取得が可能であることが確認されている。この範囲が確定できれば、係留気球の配備ネットワークを計画することができるようになる。今後、より高度で音の取得実験を進める予定である。



マイクロフォンアレーによる音声取得実験の様子  
(https://youtube/60xdqzIX4SA)

##### ● 地域の魅力創出につながるまち歩き支援アプリとデザインワークショップの開発

本事業では、「街の見方」の視点を変化させ、地域の魅力につながる様々な要素「魅力の種」を発見・収集するツールとワークショップを、京都精華大学及び地域科学研究所と協力しながら開発を進めている。改良を進めている「魅力の種」の発見については、「視点変化サイコロ」や「視点変化スロットアプリ」を使用することでランダムに選定された「お題」に沿った視点で街を見るように誘導し、普段の生活では得られない地物や現象に気づく

ことができるようにするものである。そして、これら「視点変化ツール」をワークショッププログラムの導入として、「街の魅力の種」に「共感」や「展開」を組み合わせることで発展させる手法を確立する。これにより、地域や参加者独自の「新しい観光スポットのアイデア」をうみだすことができる。本年度は、これらのプロセスを一貫して実施するワークショップの開発と実践を行った。

● 勝浦町調査研究 - SDGsの視点からの地域経済分析 -  
本研究は、勝浦町において多面的な社会的役割を果たす農村体験型宿泊施設「ふれあいの里さかもと」の将来ビジョン策定に向け、当該施設の動向、現状及び経済波及効果についての調査を実施し、そこから得たデータや情報を、勝浦町における持続可能な地域経済循環を果たすために提供することを目的とするものである。令和4年度は勝浦町の行政、勝浦町役場、さかもとの里、道の駅ひなの里及びよつてネ市の関係者・観光客・地域住民へのヒアリング調査及びアンケート調査、生産農家の現地視察を実施。また調査結果をもとに、関係者を交えた研究報告会を3回実施し、結果分析について討議した。今後は、地域を巻き込んだ産官学連携による資源活用・循環経済の実現のため、研究チームとしての体制を強化・構築し、さらに研究を拡充させる。



##### ● 高齢化問題意識啓発プロジェクト

本事業は、高齢化先進県である徳島県において、多様な世代の一人ひとりの県民が主体的に問題の解決に向けて行動できるよう意識啓発を促すことを目的としている。活動について、大人向けのものは話題提供とグループワーク、子ども向けのものは絵本の読み聞かせと寸劇、子どもによる参加型の活動により、それぞれ構成される。大人向けの活動は、徳島大学地域創生・国際交流会館や小松島市において、子ども向けのものは徳島市や北島町において実施し、今後県下各地での実施を予定している。

##### ● FILM CYCLE PROJECT

Film Cycle Projectではエゴドキュメントの視点から個人が記録したパーソナルメディアを再度地域に還元し公共の資産として共有することを目的とする。収集した8mmフィルムは1000本近くに達し、収集とデジタル化、GISによるマッピングの活動を進めた。過去の映像記録群は徳島大学が持ち得るビッグデータとして登録可能で、今後は街中でのアーカイブセンター等の整備を進める。



## 写真で振り返る令和4年度の実践

